

第1941回埼玉県教育委員会定例会

- 1 日 時 令和4年10月27日(木) 午前10時開会  
午前10時47分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 高田教育長、戸所教育長職務代理者、坂東委員、小林委員、首藤委員、櫻井委員、石井副教育長、古垣教育総務部長、石川県立学校部長、石井市町村支援部長、小谷野教育総務部副部長、佐藤魅力ある高校づくり課長、渡辺義務教育指導課長  
案浦書記長、岩崎書記、原口書記、森田書記
- 4 会議の主宰者 高田教育長
- 5 会 議
- 高田教育長が、10月18日付けで教育委員会委員に就任した櫻井雅彦委員を紹介した。
  - 高田教育長が、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、戸所委員を教育長職務代理者に指名した旨報告した。
  - 高田教育長が、櫻井委員の就任に伴い、埼玉県教育委員会会議規則の規定に基づき、各委員の議席を指定した。
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
  - 高田教育長が、戸所教育長職務代理者を議事録の署名者に指名した。
- (2) 議事
- 魅力ある県立高校づくり第2期実施方策(案)について 上程

佐藤魅力ある高校づくり課長（提案理由、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策（案）について説明）

首藤委員 今まで丁寧に議論を重ねてきて、今後の社会・産業構造の変化や社会のニーズを捉えた上での魅力ある県立高校づくりの実施方策（案）となっていると思います。説明会や県民コメントを行い、進め方としても丁寧に進めてきたと思います。多くの県民コメントを頂きましたが、それを受けて変更した点を再度教えてください。

佐藤魅力ある高校づくり課長 変更箇所は、資料6ページの大宮工業高校と浦和工業高校の統合、新校の基本方針の2つ目です。変更前は「学科横断型の課題研究」でしたが、「学科横断型の課題研究など」の「など」を県民コメントを受けて追加しました。専門知識の統合を図り、新たな価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成することは課題研究だけではないので、「など」を追加しました。県民コメントでは、様々な貴重な御意見を頂きましたので実施段階において御意見を踏まえ検討してまいります。

高田教育長 引き続き、地元自治体、学校関係者と十分な意見交換をしながら丁寧に進めてまいります。

- 全出席委員異議なく本案原案どおり可決

### (3) 報告事項

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査の結果及び調査結果の活用について

渡辺義務教育指導課長（提出理由、調査の目的・特徴、調査の概要、「学力のレベル」と「学力の伸び」、調査結果、調査結果を活用した学力向上施策、今後の埼玉県学力・学習状況調査について説明）

戸所教育長職務代理者 8年間に渡り同じ考え方で引き続き調査し、全国学調の平均正答率の全国との比較でも、良い傾向が続いていることに対して、事務局及び現場の努力に感謝したいと思います。県学調は何のためにやるのか、児童生徒の学力向上と児童生徒を支えている先生の指導力等をより高めるために行っていると思います。資料11ページの調査結果を活用した学力向上施策に

ついてですが、二つの柱があり、総合的な支援と重点的な支援がありますが、重点的な支援は、昨年度や直近でどのような支援を実施したのか教えてください。

渡辺義務教育指導課長 重点的な支援は、県学調のデータを活用し、課題の見られる学校又は市町村教育委員会に対して支援を行っています。具体的な支援は、12ページの記載のとおり、「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業と県学調の結果に基づく市町村や学校に対する支援になります。「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業は、学力に課題を抱える小学校4・5年生の児童に対して教育的支援を行っています。県学調の結果に基づく市町村や学校に対する支援は、前年度の県学調で学力が伸びた児童生徒の割合が県平均を下回る状況にある市町村や小・中学校に対して重点的に支援しています。実際には教員の加配を行うことや事務局が何度も市町村教育委員会や学校に足を運び、県学調の活用方法についての説明会や指導方法の改善について指導しています。

戸所教育長職務代理人 令和3年度には、18校で実施していますが、この18校は事務局が指定しているのでしょうか。

渡辺義務教育指導課長 そのとおりです。

戸所教育長職務代理人 県学調のデータは、それぞれの学校と校長や先生も含め、学校別に確認できるようになっているのでしょうか。

渡辺義務教育指導課長 学校は自校のデータが確認できます。市内全体の学校の状況は、市町村教育委員会が把握しています。

戸所教育長職務代理人 重点的な支援において、県教育局の指定を受けていない学校や市町村教育委員会からサポートの依頼はあるのでしょうか。

渡辺義務教育指導課長 実際にはそういったケースは多くあります。市町村教育委員会からの要望を受けて、事務局が県学調の有効な活用方法や学力向上に向けた会議等を開催して説明しています。

戸所教育長職務代理人 県学調は、現場のレベル上げ、児童生徒の学力を上げるために行っていますが、今の説明で現場の声も聞きながら行っていることが理

解でき、県学調がプラスになっていることを実感できました。今後とも引き続きよろしくをお願いします。

小林委員 保護者の視点から県学調の結果をどういった形で各家庭にフィードバックされているのか、とても気になる点です。学校や市町村教育委員会にはまとめてフィードバックしているとのことですが、保護者は、県学調を子供の学力を確認するツールにしていると思います。児童生徒のフォローは各学校が行い、学校に対して教育委員会が指導しているのか、個々の家庭や子供たちへのフィードバックの状況について教えてください。

渡辺義務教育指導課長 県学調は、児童生徒一人一人の学力の伸びを小学校4年生から中学校3年生の6年間継続して確認できることが特徴です。毎年、児童生徒一人一人に対して、個人結果票という形で各教科の学力のレベルを示して結果を渡しています。そして、児童生徒の個人結果票と学校全体のデータを学校に渡し、学校の教育活動に生かしています。

首藤委員 県学調は、全国にも誇れる埼玉県教育システムだと思います。県学調が始まる前は、全国学調の平均正答率が全国平均より下だったと思います。その頃から、一人一人の学力を伸ばすため、一人一人の学力の伸びに着目して県学調が始まり、今は良い循環が生まれていると思います。学校や児童生徒は自分の学力が分かり、学校、児童生徒、家庭の努力につながるため、良い循環になっていると思います。県学調は、私は非常に良い取組だと思いますので積極的に広報したほうが良いと思います。今後とも是非続けてほしいと思います。

渡辺義務教育指導課長 埼玉県学力・学習状況調査を始めて以降、一人一人の学力の伸びを丁寧に見ていく調査の特徴を最大限に生かして、学力の向上が図れていると思います。全国学力・学習状況調査においても良い結果が表れているので、良い循環が生まれていると思います。また、広報についても、積極的に行っていきたいと考えています。

坂東委員 資料8ページの児童生徒の質問紙調査ですが、前年度と比較して、2年間で判断することは難しいのではないかと思います。可能であれば、5、6年間の単位で確認することが必要だと思います。また、ICT教育により一人

一台端末となりましたが、画面だけで確認するだけでなく、クラスの児童生徒同士で確認することが必要ではないかと感じました。埼玉県は、全国学調の平均正答率が全国的な平均より高いかもしれませんが、今後の集団的な学びについては、どのようにすべきかどうか、検討してもらえればと思います。

高田教育長 資料の16ページに市町村別のデータがありますが、それぞれの学年の平均正答率と前年度より伸びた児童生徒の割合が記載されています。市町村教育委員会は、学校ごとの平均正答率と学力の伸びの状況を確認でき、学力が伸びている学校の取組を把握して、良い取組を市町村内に普及することができます。学校ではクラスごとにデータを見ることができ、学力が伸びている担任の授業方法や学級運営を学校内で共有することができます。県学調は、そういったことを行うことにより授業や学級経営を改善することを目的としています。C B Tについては、全国学力・学習状況調査に先んじて、来年度から実施します。C B Tを実施することで細かく子供たちのデータを取ることができます。例えば、最初は選択肢アを選択したが、その後選択肢イに変更したことなど、問題に対して迷ったことを確認することができ、子供たちのつまづきを更に把握することができます。全国的にも注目されている県学調でございますので、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

(4) 次回委員会の開催予定について

11月9日(水)午前10時